

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年 5月20日現在

機関番号：13301

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2012

課題番号：21592746

研究課題名（和文） 糖尿病チーム医療を推進する看護師のスキルアップ戦略

研究課題名（英文） Strategy for nurses to skill up of promoting a team care for diabetes patients

研究代表者

多崎 恵子 (TASAKI KEIKO)

金沢大学・保健学系・助教

研究者番号：70345635

研究成果の概要（和文）：糖尿病チーム医療における看護師の役割を明らかにするために、7名の経験豊富な看護師を対象にフォーカスグループインタビューを行い質的に分析した結果、7カテゴリーが導き出された。その結果に基づき項目を抽出した「糖尿病チーム医療を促進する看護師の実践指標試案（以下試案）」20項目について、糖尿病看護認定看護師に同意の程度および意見を求め、表現の修正ならびに項目の追加を行い26項目からなる「糖尿病チーム医療を促進する看護師の実践指標原案（以下原案）」を作成した。この原案について糖尿病看護認定看護師に同意の程度を確認する自記式質問紙調査を行い、最終的に25項目からなる糖尿病チーム医療を促進する看護師の実践指標を完成させた。

研究成果の概要（英文）：We performed focus group interview for seven expert nurses of diabetes care, in order to explain a role of the diabetes team medical care as a nurse and analyzed it qualitatively, and seven nursing roles were identified. We extracted 20 items for a draft for the practical index from previous study results and collected opinions and data on the level of agreement for each item based on responses obtained from certified diabetes care nurses. We changed the expressions for several items and added new some items to create an original 26-item proposal. For 26 items, we collected opinions and data on the level of agreement. Finally, we completed a practical index for nurses promoting team medical care for diabetic patients with 25 items.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2010年度	900,000	270,000	1,170,000
2011年度	900,000	270,000	1,170,000
2012年度	500,000	150,000	650,000
年度			
総計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：看護科学

科研費の分科・細目：看護学・臨床看護学

キーワード：糖尿病，看護師，チーム医療，専門性，指標

1. 研究開始当初の背景

わが国において糖尿病患者数は増加の途

を辿っており、今後医療費に及ぼすさらなる負担が懸念される。その対応策として、メタボリックシンドロームに着目した特定健康診査・特定保健指導の開始、糖尿病足病変ケアへの診療報酬の認定が実現した。しかしその反面、医療費削減を目的にこれまで糖尿病医療において重要な位置づけであった教育入院期間短縮化が促進された。その結果、患者への教育効果を狭めてしまう危険性が考えられた。この課題に対応するためには「糖尿病チーム医療」を充実させることが最も時機を得た方略であると考えた。この「糖尿病チーム医療」を十分に機能し実のあるものとするためには、チーム医療の支柱である看護師がその専門スキルを高めることが最優先課題であるといえる。

しかしながら糖尿病医療の現場ではうまくチームが機能していないという実態や、教育効果を得られにくい看護師の“一般的知識を提供する教育スタイル”が約半数を占めている実態が明らかにされている。またこの一般的知識を提供するスタイルではチーム連携の意識や実践の自信・意欲が最も低かったことから、看護師のスキルがチーム連携と関連していることが明らかになった。また看護師が他職種から信頼されている手ごたえは教育スタイルの種類に関係なく全体的に低い傾向であったことから看護師は医療チーム連携の手ごたえを得にくい状況であることが分かった。

以上より看護師の専門性の向上にはチーム連携の意識や連携の内実が関係していると推察される。そこで糖尿病医療において、看護職が医療チームのメンバーとしてどのような力を必要とされているのか、またどのように力を発揮していけるかを明らかにしなければならないと着想するに至った。

2. 研究の目的

(1) 糖尿病チーム医療における看護師の役割を経験豊富な看護師の認識から明らかにする

(2) 糖尿病チーム医療を促進する看護師の実践指標を作成する①試案から原案の作成②原案の内容妥当性の確認

3. 研究の方法

(1) 糖尿病チーム医療における看護師の役割の明確化

糖尿病チーム医療を積極的に行っている4施設7名の経験豊富な看護師を対象にフォーカスグループインタビューを行い、そのデータについて類似したコードをまとめカテゴリー化した。

(2) 糖尿病チーム医療を促進する看護師の実践指標作成

概要：(1)の結果であるカテゴリー・サブカテゴリーに基づいて項目を抽出し実践指標試案項目作成からスタートした。糖尿病看護熟練者を対象に、試案の各項目に対する同意の程度ならびに意見を求め、項目修正と項目追加を行い原案を作成した。その後、原案の内容妥当性を整えるために再度熟練者を対象に同意の程度について回答を求め最終的な実践指標を完成させた。

対象者：糖尿病看護の熟練者である糖尿病看護認定看護師(以下認定看護師)303名

データ収集方法：対象者へ自記式質問紙への回答を依頼した。各項目に対する同意の程度について、5段階評定尺度にて回答を求めた。また、理解しにくい表現、ほかに加えるとよい内容等の意見について、自由記載での回答を求めた。

データ分析方法：Lynnの内容妥当性の定量化の方法(Lynn, 1986)を参考に、content validity index (CVI)を求めた。項目ごとの妥当性(以下Item CVI)については、肯定

的評価の割合が 0.78 以上で妥当性ありとされている (Politt・Beck, 2008 ; 吉田・和泉他, 2011)。しかし本研究では指標としての内容的妥当性をより高めるために各項目の妥当性を 0.90 以上とした。さらに、理解しにくい表現やほかに加えるとよい内容等の意見については内容を整理した。これらをふまえ、各項目の表現について研究者間で討議した。これに加え、原案の同意については、全項目の『同意できる』割合の平均 (Scale CVI) が 0.90 以上であれば妥当性があることを示すとした。

倫理的配慮：金沢大学医学倫理審査委員会の承認 (番号 359) を受け実施した。本研究は無記名であり個人や施設が特定されないこと、調査用紙の返送をもって本研究に同意を得たものとする、データは研究目的のみに使用し、研究終了後速やかに破棄すること、研究結果については学会および論文等にて公表することについて、送付した依頼文に明記した。

4. 研究成果

(1) 糖尿病チーム医療における看護師の役割の明確化

看護師 7 名より、7 カテゴリー、《患者の生命と生活の質を守ることを認め合い専門性を発揮する》、《患者の生活の中の迷いや声をききとり生活の実像を意味づけして示す》、《患者の代弁者であることを示す》、《看護師の仕事に自信を持ち形あるものにして示す》、《専門職として他職種を尊重していることを基盤とした信頼関係を築く》、《患者目線に立つチーム作りに意図的に取り組む》、《他職種の力を信頼し委ねる》が導き出された。これら 7 つの看護師の役割は、チーム医療における看護師の姿勢といえ、チームにおいて看護師が意図的にこれらを最大限に発揮することが、理想的な糖尿病チー

ム医療の推進につながる可能性が示唆された。

(2) 糖尿病チーム医療を促進する看護師の実践指標作成

① 試案から原案の作成

認定看護師 149 名より回答を得た (回収率 49.1%, 有効回答率 100%)。項目ごとの肯定的評価の割合である Item CVI 0.90 以上 17 項目, 0.90 未満 (82.6%, 73.8%, 64.4%) が 3 項目であった。これら Item CVI と看護師の意見を参考として、14 項目の表現を修正し、6 項目を新たに加え、計 26 項目からなる実践指標原案が作成された。この原案 26 項目は性質の類似により 8 分類され、4 項目が『看護師としてのケアの姿勢』, 4 項目が『看護の専門性の表明』, 3 項目が『医師との協働』, 3 項目が『患者を大切に作るチームの育成』, 3 項目が『チームメンバーとしての基本姿勢』, 3 項目が『チームのモチベーションの維持と向上』, 4 項目が『各専門性の相互活用と調整』, 2 項目が『施設内のチーム活動活性化』となった。以上より、内容の充実と表現の精選がなされた実践指標原案 26 項目が作成された。

② 原案 26 項目の内容妥当性の確認

認定看護師 158 名より回答を得た (回収率 52.1%, 有効回答 157 名)。全項目の肯定的評価の割合の平均である Scale CVI は 0.96 であった。項目ごとの肯定的評価の割合である Item CVI は 2 項目が 0.90 未満であった。最終的に Item CVI 0.78 未満の 1 項目を削除し 25 項目からなる糖尿病チーム医療を促進する看護師の実践指標を完成させた。これら 25 項目を以下に示す。

要素	実践指標の項目
看護師として のケア の姿勢	1 糖尿病をもちながら生活する患者の生活とはどのようなものかを思い描き、患者が医療者にメッセージを出せるよう支援する

	2	糖尿病をもちながら生活する患者の迷いや困難に看護師として辛抱強く付き合う努力をし、患者の信頼を得る努力をする		13	看護のはたらきかけが患者により変化をもたらしたときは、その内容を論理的に他職種に伝える
	3	糖尿病をもちながら生活する患者の立場に立ちながらも専門的立場で冷静な判断を経てケアを提供する		14	他職種のもつ専門的知識や技術を積極的に求める
	4	患者の身体と心の状態を敏感に感じとり、患者と一緒に考え取り組んでいく	各専門性の相互活用と調整	15	他職種が患者指導に使える看護のスキルを提供する
	5	治療のリーダーである医師とのコミュニケーションを工夫し信頼関係を確立する		16	他職種と意見が対立した時、患者の安全および安寧の保証を第一に、相手の専門的立場の尊重とチームのバランスを考え調整する
医師との協働	6	パートナーである医師に、看護師としての専門的力量を認めてもらえるように工夫する		17	チームで分担する仕事の場合は個人の負担量を考慮する
	7	糖尿病をもちながらも患者がより健康的で安寧に生活できるよう、その目標を患者や家族を含んだチームで共有する	チームのモチベーションの維持と向上	18	チームとしてはたらきかけたことによって患者がよりよく変化した事実をメンバーに伝え、その喜びを共有しチームを盛り上げる
患者を大切に するチームの育成	8	糖尿病を持ちながら生活していくという患者の立場に立った糖尿病チームを育成していこうと意識する		19	チームメンバーを尊重し信頼関係を築き上げていく行動をとる
	9	糖尿病を持ちながら生活するとはどういうことかを家族にも分かってもらい必要な役割を担ってもらえるようチームで家族にはたらきかける		20	チームメンバーの専門職としての熟達や成長を感じる時にはそのことを相手に伝える
	10	糖尿病をもちながら生活する患者の考え方や生き方を患者目線でとらえ、チームに対し発信する	チームメンバーとしての基本姿勢	21	それぞれが最大限の力を発揮できよう、チームの中に患者や家族も含め努力する
看護の専門性の表明	11	患者の代弁者としてチームに対し積極的に発言し患者を擁護する		22	チームは患者や家族も含め連携し取り組んでいこうとする意識を持ちつづける
	12	看護師としての考えを他職種に的確に伝える		23	チームメンバー間のみならず患者や家族を含め互いに同等なメンバーとして認め合う
			施設内のチーム活動活性化	24	チームが組織の中で活動しやすいようチーム外の関係部署・関係者にはたらきかける
				25	チームの活動を活性化するために取り組もうとする

以上より、本実践指標は、糖尿病看護のエキスパートである認定看護師の肯定的評価によって内容的妥当性が確認された指標として、看護師が患者の視点に立った糖尿病チーム医療を意図的に促進するための指標として、今後の臨床での適用が期待される。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 17 件)

- ① 多崎恵子, 稲垣美智子: 糖尿病チーム医療を促進する看護師の実践指標—原案の作成—. 金沢大学つるま保健学会誌, 37(1), 掲載確定, 2013. (査読有)
- ② 多崎恵子, 稲垣美智子, 松井希代子, 村角直子: 「糖尿病教育スタイル自己評価ツール」を用いた看護師への得点フィードバックの評価—1 ヶ月後および 4 ヶ月後の看護師の変化—. 看護実践学会誌, 24(1), 31-40, 2012. (査読有)
<http://www.kango-ji.com/journal/24.html>
- ③ 多崎恵子, 稲垣美智子, 松井希代子, 村角直子: 看護師がとらえる糖尿病チーム医療における役割—経験豊富な看護師の認識から—. 金沢大学つるま保健学会誌, 35(2), 63-69, 2011. (査読有)
<http://dspace.lib.kanazawa-u.ac.jp/dspace/bitstream/2297/29772/1/AA11599711-52-2-63.pdf>
- ④ 村角直子, 稲垣美智子, 高木千絵, 松井希代子, 多崎恵子: 糖尿病ケアにかかわる看護師の手ごたえの内容. 看護実践学会誌, 23(1), 46-56, 2011. (査読有)
<http://www.kango-ji.com/journal/24.html>

- ⑤ 尾蔵清佳, 今井三佳, 北川真衣, 中間亜希, 深瀬古知里, 多崎恵子, 稲垣美智子, 藤野陽: 看護師が認識する糖尿病腎症初期患者へのケア. 日本糖尿病教育・看護学会誌, 15(1), 11-17, 2011. (査読有)
<http://mol.medicalonline.jp/library/journal/download?GoodsID=dx7tohka/2011/001501/002&name=0011-0017j&UserID=133.28.178.104>
- ⑥ 多崎恵子, 野村仁美, 稲垣美智子, 松井希代子, 村角直子, 田口尚美, 村田信子: 石川県の医療施設における看護師の糖尿病療養指導の現状. 看護実践学会誌, 23(1), 82-89, 2011. (査読有)
<http://www.kango-ji.com/journal/24.html>
- ⑦ 多崎恵子, 稲垣美智子, 松井希代子, 村角直子: 北陸地方の看護師の糖尿病教育スタイルの実態. 日本糖尿病教育・看護学会誌, 14(1), 22-29, 2010. (査読有)
<http://mol.medicalonline.jp/library/journal/download?GoodsID=dx7tohka/2010/001401/003&name=0022-0029j&UserID=133.28.178.104>

[学会発表] (計 28 件)

- ① 多崎恵子, 稲垣美智子: 「患者目線に立った糖尿病チーム医療」を促進する看護師の実践指標の作成. 第 17 回日本糖尿病教育・看護学会学術集会, 2012 年 09 月 29 日, 国立京都国際会館 (京都府)
- ② 多崎恵子, 稲垣美智子, 松井希代子, 村角直子: 糖尿病チーム医療における看護師の役割—看護師へのフォーカスグループインタビュー内容の分析. 第 16 回日本糖尿病教育・看護学会学術集会, 2011 年 9 月 25 日, 東京ビッグサイト (東京都)

- ③ 由本聡登美, 野村仁美, 村角直子, 稲垣美智子, 多崎恵子, 松井希代子: 外来における糖尿病初期教育に対する看護師の認識. 第4回看護実践学会学術集会, 2010年9月5日, 金沢医科大学 (石川県)
- ④ 多崎恵子, 稲垣美智子, 松井希代子, 村角直子: 「糖尿病教育スタイル自己評価ツール」を用いた継続的フィードバック面接による看護師の教育スタイルの変化, 第53回日本糖尿病学会年次学術集会, 2010年5月29日, 岡山全日空ホテル (岡山県)
- ⑤ 多崎恵子, 稲垣美智子, 松井希代子, 村角直子: 糖尿病教育スタイル自己評価ツールを用いた2施設の看護師へのフィードバック面接の評価, 第81回日本糖尿病学会中部地方会, 2010年4月17日, 金沢大学医学部講義室 (石川県)
- ⑥ 多崎恵子, 稲垣美智子, 松井希代子, 村角直子: 「糖尿病教育スタイル自己評価ツール」を用いた看護師へのフィードバック面接の評価, 第14回日本糖尿病教育・看護学会学術集会, 2009年9月19日, 札幌コンベンションセンター (北海道)
- ⑦ 松本智恵美, 村太万里, 小嶋梨恵子, 山崎松美, 稲垣美智子, 多崎恵子: 先進医療提供型病院の入院における糖尿病ケア看護支援の実態とケアニーズ. 第14回日本糖尿病教育・看護学会学術集会, 2009年9月19日, 札幌コンベンションセンター (北海道)

[その他]

ホームページ等

<http://square.umin.ac.jp/dmcare/program.html>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

多崎 恵子 (TASAKI KEIKO)

金沢大学・保健学系・助教
研究者番号: 70345635

(2) 研究分担者

稲垣 美智子 (INAGAKI MICHIKO)
金沢大学・保健学系・教授
研究者番号: 40115209

八木 邦公 (YAGI KUNIMASA)
金沢大学・大学病院・助教
研究者番号: 30293343

(3) 連携研究者

松井 希代子 (MATSUI KIYOKO)
金沢大学・保健学系・助教
研究者番号: 90283118

村角 直子 (MURAKADO NAOKO)
金沢大学・保健学系・助教
研究者番号: 30303283

小泉 順二 (KOIZUMI JYUNJI)
金沢大学・大学病院・教授
研究者番号: 20161846